

◎ ペレット関連情報

■燦キャピタルマネージメント (株) (大阪) が 3 月、発電向けペレット燃料の製造・販売で孫会社設立へ。同社は国内外におけるクリーンエネルギー関連事業を投資事業の柱の一つと位置付け、昨年 11 月 28 日に SUN GREEN POWER ENERGY PTE.LTD (以下 SGPE 社、シンガポール) を完全子会社化。さらに今後 SGPE 社の持つエネルギー関連事業に関するノウハウや事業会社とのパイプを活かし、国内においても当該事業を展開していくとして SGPE 社 100%出資の日本法人「SGPE ジャパン (株) (仮称)」設立を決定。国内の電力会社及びバイオマス発電事業者に供給するための燃料の製造・販売事業等を行う準備を開始しており、詳細は確定し次第逐次開示する予定【OSR No.264 号、同社 :2017/02/15】
<http://sun-capitalmanagement.co.jp/2017/02/15/20170215/>

■テイストライフ協同組合 (静岡)、静岡県浜松市天竜区の森林で生産される FSC 認証材 (スギの間伐材) を使った猫用トイレ商品「天竜美林のペレット」を開発。2 月 22 日の「猫の日」に販売を開始。ペレットは主に燃料として出荷されるが、原油安などの影響を受け、生産者は販売に苦慮している。同組合は猫ブームで市場規模が広がり、外国産木質ペレットが猫砂として販売されていることに目を付け、ペレットを生産する龍山森林組合 (同区) と連携。「猫も森林浴気分でさわやかにトイレができる」と市の補助金も利用し売り出すことに。ペレットは一匹の猫が一カ月使える 5ℓ入りで 980 円【中日新聞 : 2017/02/15】
<http://www.chunichi.co.jp/article/shizuoka/20170215/CK2017021502000042.html>

■ÖkoFEN 社 (オーストリア) の日本総代理店である (株) ZE エナジー (東京)、ÖkoFEN 社が開発した世界初となる発電機能付き小型ボイラの国内販売を開始。「Pellematic Smart_e」、「Pellematic e-max」の 2 種類でいずれも木質ペレットが燃料。Pellematic Smart_e は一般家庭や公民館などの小規模施設に最適な貯湯タンク内蔵の小規模ペレットボイラで熱出力は 9kW (ピーク負荷時 13kW)、電気出力は 0.6kW。Pellematic e-max は工場やホテル、マンションなど高効率で電気を供給する小～中規模ペレットボイラで熱出力は 55kW、電気出力は 4.5kW。【(株) ZE エナジー : 2017/02/16】
http://www.ze-energy.net/news/info/okofen-e_bm-expo.html

■ (株) レノバ (東京) が建設を計画する静岡県御前崎港の木質バイオマス発電所は、2022

年中に運転開始予定。2月19日夜に御前崎市内で開いた地元住民向けの説明会で明らかに。発電所は出力7万5千kW級の、木質バイオマスとしては全国最大規模。FITを利用し中部電力に売電。燃料は主に木質ペレットで北米やアジアから輸入する。県環境影響評価条例に基づき、2月下旬から2年間環境影響評価を実施する。同社は2月27日付で静岡県知事に「(仮称)御前崎港バイオマス発電事業環境影響評価方法書」、及びこれを要約した書類を提出。方法書の縦覧を2月28日～3月27日まで実施し、4月10日まで意見書の提出を募集。3月15日には御前崎市内で説明会を予定【静岡新聞：2017/02/20、(株)レノバ：2017/02/27】

<http://www.at-s.com/news/article/economy/shizuoka/330825.html>

http://www.renovainc.jp/omaezakikou_biomass_EIA.html

■長野県伊那市、「ふるさと納税」の寄付金の本格活用へ。市は2015年度に全国8位の25億円8,000万円の寄付を受けたほか、2016年度は最終的に約70億円の寄付を見込む。寄付金はいったん「ふるさと応援基金」に積み立てた上で、返礼品などの経費を差し引いた分を活用。貴重な財源として慎重に使い道を検討してきた結果、子育て分野に2億1,500万円、教育分野に8,600万円、医療・福祉分野に8,900万円、低炭素社会の実現分野に1億3,590万円などを振り向けた。2017年度はこの他、ペレットストーブ・ボイラの設置補助、みはらしの湯へのペレットボイラ設置等にも寄付金を活用する【長野日報：2017/02/21】

<http://www.nagano-np.co.jp/articles/13783>

■農水、経産、国交の3省が「合法伐採木材等流通・利用促進法(クリーンウッド法)」の運用案を公表(2月22日)。日本や原産国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材の利用を促し、環境破壊につながる違法伐採材が流通しない市場を形成するのが同法の狙い。公表された運用案によると、流通や利用を促す対象物品については、国や自治体が環境負荷低減に配慮した製品やサービスを優先的に購入することを定めたグリーン購入法の対象物品を広げる形で規定。このうち木材は製材、集成材、間伐材、合板、単板積層材に加え、丸太、単板、突き板、木質ペレット、チップ状または小片状の木材、その他が対象となっている。法律に基づく省令や基本方針となる運用案に対する意見を3月23日まで募集しており、5月20日に施行される予定【日刊建設工業新聞：2017/02/23、e-Gov：2017/02/22】

<https://www.decn.co.jp/?p=87415>

<http://search.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550002453&Mode=0>

■(株)オプティマイザー(東京)、世界機関に認証された一押し再生可能エネルギー燃料(全6種類)を3月1～3日に東京ビッグサイトで開催された「国際バイオマス発電展」

で紹介。数々の国際的な受賞歴を誇る、森林認証（FSC 認証&PEFC 認証）ダブル取得の木質ペレット（マレーシア産）や、ゴムの木が原料のタイ産ペレット、アカシアの木が原料のインドネシア産ペレット等を出展【JIJI1.COM2017/02/24】

<http://www.jiji.com/jc/article?k=000000013.000012075&g=prt>

■中部電力（株）（愛知）、武豊火力発電所 5 号機における木質バイオマス燃料の混焼計画についてプレスリリース。2022 年 3 月に営業運転開始を予定している武豊火力発電所 5 号機において木質ペレットを混焼することで、石炭専焼と比較して CO₂ 排出量を約 90 万 t/年削減する。バイオマスによる発電量は 12 億 kWh/年に達し、日本最大規模。おがくずなどを焼き固めたブラックペレットと呼ばれるバイオマス燃料を海外から輸入し、約 50 万 t/年を発電に利用する。ペレットを粉砕する機器などを新たに導入するが、設備投資金額などは現時点では未定【同社、日本経済新聞：2017/02/28】

https://www.chuden.co.jp/corporate/publicity/pub_release/press/3263305_21432.html

http://www.nikkei.com/article/DGXLASDZ28I0J_Y7A220C1TJC000/?ct=ga

■エネルギー資源開発（株）（東京）と伸光ホールディングス（株）（愛知）、高性能 EFB（パーム椰子空果房）ペレット製造に関する業務提携を締結。インドネシア等で多量に廃棄される EFB はカリウムや塩化物等、ボイラに悪影響を及ぼす成分を多量に含んでおり、発電所の燃料としては不適合とされているが、伸光ホールディングスグループと東京工業大学の吉川邦夫教授がボイラに有害な物質を高温高圧環境下で除去する技術を確立。この技術でウッドペレットと同等の性能を持つ低位発熱量約 4,400kcal/kg の「高性能 EFB ペレット」が製造可能に。PKS に対抗できる価格帯を目標とし、2020 年度には、5 万 kW のバイオマス専焼発電所 4 基分に相当する最低 100 万 t/年を供給できる体制を整える。今後はこの事業のパートナーを募りながら、北九州ひびき灘バイオマス燃料集配基地及び商社を通じて、日本の発電所に燃料を供給する体制を進めていく【エネルギー資源開発（株）：2017/03/01】

<http://www.ene-ins.com/image/20170301pr.pdf>

■JFE エンジニアリング（株）（東京）、福岡県豊前市のバイオマス発電プラントの EPC（設計・調達・建設）を受注。同社が業務提携しているバルメット社（フィンランド）が有する CFB ボイラの技術により同規模の発電所で最高水準の発電効率を達成できることが評価され、受注に至ったもの。豊前ニューエナジー合同会社が九州高圧コンクリート工業（株）（福岡）の豊前工場敷地内に建設を予定している発電プラントで、PKS および木質ペレットが燃料。発電出力はバイオマス燃料のみを使用する発電所としては国内最大の 74,950kW。2019 年度下期に商業運転開始予定【同社：2017/03/01】

<http://www.jfe-eng.co.jp/news/2017/20170301085449.html>

■佐賀県の佐賀市役所三瀬支所が、1月よりペレットストーブを2台導入。燃料のペレットは佐賀市富士町のNPO法人「みんなの森プロジェクト」が、市内の製材所や富士大和森林組合から出る杉の木くずを利用して製造、供給。導入費は約100万円。県のふるさと木材利用拡大推進事業で半額の助成を受けた。燃料代は5万4,000円(4カ月分)になる見込み【佐賀新聞：2017/03/05】

<http://www.saga-s.co.jp/news/saga/10105/411298>

■(株)日立製作所(東京)、竹類からカリウムと塩素を溶出させることで発電用木質バイオマス燃料と同等の品質に改質する技術を開発。竹はカリウムが多量に含有されているため灰の軟化温度が680~900℃と低く、大型のボイラで燃焼させると炉内にクリンカを生成するほか、塩素濃度が高いことから耐火物や伝熱管の腐食を発生させやすい。また低温で燃焼した場合ダイオキシン類を生成し、さらに燃焼温度に関わらず200~500℃でダイオキシンが再合成することにもつながるため、竹はバイオ燃料には不向きとされてきた。今回同社が開発した技術では、破砕機で6mm以下に砕いて細かくしたうえで水に浸すことで、竹からカリウムと塩素を抽出。脱水・乾燥しペレット状に固める。灰の軟化温度が1,100℃以上に向上し、塩素濃度を木質バイオマス燃料と同等レベルまで抑えることに成功した。同技術は林野庁補助事業「木質バイオマス加工・利用システム開発事業」として、福岡県八女市と北九州市の協力のもと、2年間にわたり開発を進めてきたもの【同社、日本経済新聞：2017/03/09】

<http://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2017/03/0309e.html>

http://www.nikkei.com/article/DGXLASDZ09HAQ_Z00C17A3000000/

※ OSR・・・オンサイト・レポートの略